

今回は、新型コロナウイルス感染症対策の中で行われた 芸術科(音楽)の取り組みに関し、お伝えいたします。

## ◇ その1 自宅待機期間の課題

特に課題を課すことはなかったが、昨今のメディア状況を考えれば、家庭の生徒たちはある意味、学校にいる時より音楽に浸り、あふれる音楽情報の中にいたと思われる。配信、動画、CD視聴はもとより、楽器に多く触れていた生徒も多い。「ずっとピアノに向かっていた」と話す生徒も。昼休みにその腕前を披露してくれる生徒は昨年と比べると多い。

この不安な状況の中、生徒にとって音楽は「心の栄養」や「癒し」となっていたに違いない。

## ◇ その2 web会議システムを利用したオンライン学習支援

新たな環境下で授業を展望するには今までの「当たり前」を問い直すことが必要で、芸術三科でもオンラインによる学習支援について時間をかけて話し合った。リアルの授業以上のものをオンラインで行うことは難しいが、新たな条件下で楽しく意味のある学習を創造していくチャンスととらえ、三科ともオンライン学習支援に臨んだ。

音楽では、バロック以前の音楽についてのイメージが持てるように教科書に沿って説明し、再現された音源を少しずつ視聴した。1回目はピタゴラスの音律についての説明が中心になったが、学校が再開されたのちに反応を聞くと、少々わかりにくかったようである。登校開始後、3年生の選択では、この音律について、さらにギターを用いて音を確認しながら行ったところ、よく理解し、振動数比も各自、計算で出すことができた。

## ◇ その3 対面授業再開後の対応

主に歌唱などの表現活動が制限される中、手拍子と足踏みを使って演奏する、ボディーパーカッションの二重奏曲に取り組んだ。簡単にできる楽譜ではない上に、互いのパートに意識を向けながら演奏するために多くの課題もあり、大変良い教材だったと思っている。楽譜を追うことのみならず、強弱のコントラストや主旋律の活かし方、何より楽しんで演奏しているチームもあり、大変楽しい雰囲気になった。「We Will Rock You」に合わせて演奏したが、少しテンポを落とした曲に変えて演奏したチームもあった。ヒップホップ系の音楽もいくつか提示できれば、各チームの楽しさやオリジナリティーがさらに広がったという点が反省点である。

夏休み後からは消毒や手洗いを行うようにし、ギターに取り組んでいる。

## ◇ その4 現状と今後の課題

これまで信じてきた当たり前のことやモノ、良いとされていた行動が制限される中、音楽の授業が本質的に求めているものを問われているような気がした。学校再開後も機会をとらえてその在り方を探っていきたい。

